

科目名	言語学						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	1年	前期	
【授業の目的・ねらい】 ことばの音声・文法・意味・社会的機能の側面を特に重視し、ことばの仕組みについて理解する。											
【実務者経験】											
【授業全体の内容の概要】 言語の機能と構造、社会的役割について認知神経心理学的視点から理解できる。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 国家試験の過去問題を解けるレベルまで実力をつけること。											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	言語と近代言語学の学問領域について、ソシュールとチョムスキーの言語理論を理解できる。										
2	言語行為に関する複数の理論について理解できる。										
3	記述言語学と規範言語学, 共時論と通時論, 言語変種について理解できる。										
4	言語分類の試みについて理解できる。										
5	言語の特性(①Lyonsの4特性)について理解できる。										
6	言語の特性(②有楔性, 他)について理解できる。										
7	日本語の特徴について概要を理解できる。										
8	言語構成の枠組みと文の種類について理解できる。										
9	文の構造と文の構成要素の関係について理解できる。										
10	語の構造について理解できる。										
11	語の構造と生成について理解できる。										
12	演習①国家試験問題を解きながら言語についての知識を深めることができる。										プリント配布
13	演習②国家試験問題を解きながら言語についての知識を深めることができる。										プリント配布
14	演習③国家試験問題を解きながら言語についての知識を深めることができる。										プリント配布
15	演習④国家試験問題を解きながら言語についての知識を深めることができる。										プリント配布
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト第3版』医歯薬出版											
【準備学習・時間外学習】 日常生活において何気なく使用している言語の機能面に対し分析的な視点をもつことで失語症への理論的アプローチがより精確になります。言語機能と認知神経心理学の関係性を発見しながら学習を進めて下さい。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											